



▲ウィッグリング・ジャパンの活動風景。ウィッグを着けた利用者は、まるで美容院に行った日のように明るい気分になる。

協働している団体の情報

NPO NPO 法人ウィッグリング・ジャパン
【住所】福岡市中央区天神2-2-13 サンペアービル3F
【TEL】092-725-6623

学校 久留米大学 先端癌治療研究センター
がんワクチン分子部門
【住所】久留米市旭町67 【TEL】0942-31-7744

企業 新日本製薬株式会社

団体 公益財団法人福岡県すこやか健康事業団

行政 福岡県 保健医療介護部健康増進課



ふくおか協働最前線

患者と先生という立場を越えて、お互いに歩み寄る時間をつくりたい

【事業名】カフェで気軽に学べるがんセミナー

「ふくおか協働最前線」では、福岡県内の進んだ協働事例に着目し、インタビュー形式で成功の秘訣に迫ります。今回は、がんに対する正しい知識を広めるために大学や企業等と協働しながら、カフェ形式の参加しやすい「がん啓発セミナー」を開催する事例を紹介します。

— NPOでの活動を教えてください。

「がん治療に有効とされる抗がん剤治療ですが、副作用として脱毛するケースは珍しくありません。女性にとって、髪が抜けることによる精神的ショックはとて大きいんです。私たちは平成22年7月から、闘病するがん患者さんにウィッグ（かつら）を貸し出す活動を進めています。ウィッグは、がん治療を終えた患者さんなどから提供していただいたもので

す。当初は無償でかつらを提供してくれなのか、需要があるのかも不安でしたが、今では500名ほどの方にウィッグをお届けすることができました。（NPO法人ウィッグリング・ジャパン 上田代表）

— セミナーをはじめたきっかけは？

「私がいる久留米大学でも年に1、2回市民公開講座を開催していますが、大きな会場がほとんどです。質問をしたくても、300人もお客さんがいる中での挙手は勇気がいります。それに話し手としても、内容が伝わっているだろうかという不安はあったんです。NPO設立パーティーが開催された時、参加者ががん患者さんについて、がんについて勉強したいが、気軽に行けるセミナーがない」と聞いたんです。ある日、アカデミックカフェというイベ

ントに話し手として参加したのですが、この雰囲気がとても良かったんです。高校生から一般の方を対象として、専門的な知識をカフェで話すスタイルです。一段高いところからではなく、同じ目線で話すことで、一人ひとりの反応がよくわかります。そこから着想して、私たちは気軽に参加できるがんについてのセミナーをやるうと考えました。（久留米大学先端癌治療研究センター 山田教授）

— 参加者の反応はいかがですか？

「12月に26回目を開催しますが、毎回アットホームな雰囲気でききやすいと好評です。コーヒを飲んだり、ケーキを食べたりしながら、気軽に参加できるため、馴染みやすかったんだと思います。このイベントは友達と一緒に来るような、特別でない場所にしたいです。だからその内容も、なるべくわかりやすい言葉で話してほしいと講師の先生にお願いしています。自由な質問時間があったり、『わからないことはなかったですか？』という先生からの歩み寄りがあることも、このセミナーならではの魅力かもしれません。（上田代表）」

— 協働相手との関係は？

「取組を続けていくためには、会場費や講師の方への謝金など資金が必要です。山田先生からご紹介いただいた、新日本製薬株式会社には「協賛で支援してもらえませんか？」とほつきりお願いしました。目的や内容を伝えると、その趣旨にご賛同いただいて、『縁の下の力持ちでいいから』と資金面で心強いサポートをしてく

ただいています。自信を持って開催できる安心感は大きいです。（上田代表）
「県民の健康増進の活動を行う福岡県すこやか健康事業団には、模型やパネルなどががんの啓発につながるツールを貸し出してもらっています。がん検診車を呼んでいたこともあります。それから県にも協働を提案したところ、保健医療介護部健康増進課の施策と合致し、協働関係を築くことができたため、事業の公益性が高まり、広報や会場の折衝がしやすくなりました。（山田教授）」

— 協働で大切にすべきことは？

「一方的にこちらがやりたいことを伝えるだけではコミュニケーションにならないと思います。まず相手がどうしたいのか聞いて、それから同じ方向を向くように話をします。お互い歩み寄る精神が協働、共助の一步になると思います。『将来こういう社会をつくりたいよね』という思いを共有し、それぞれが得意な部分を持ち寄ることが大切ではないでしょうか。（上田代表）」



【左】NPO法人ウィッグリング・ジャパン 上田代表
【右】久留米大学 先端癌治療研究センター 山田教授